

平成28年度第4回国際化戦略部会 議事概要

日時：平成28年8月10日（水）11:00～12:00

場所：大阪市役所7階 市会第6委員会室

出席委員：近藤部会長、生駒専門委員

〔開会〕

〔はじめに〕

都市像名に関しより分かりやすい表現について検討。本日欠席の野村委員からも事前に意見を伺った上で、事務局案として「出会いが新しい価値を生む多様性都市」を提示。部会にて了承。

〔第2回都市魅力戦略推進会議報告〕

■近藤部会長（資料1）

○審議の結果、戦略素案の記載内容でおおむね合意された。

〔KPIの目標数値の決定について〕

■事務局説明（資料2-1～3）

○KPIについては、一般公表されているなどデータの捕捉が容易であり、継続性のある統計資料であることを前提とした。「世界で活躍できるグローバル人材育成都市」の主たるKPIは「大阪で学ぶ留学生数」で23,000人、「出会いが新しい価値を生む多様性都市」は「大阪で働く外国人労働者数」で61,000人として、事務局案を提示。副指標については、現在取組んでいる施策等も考慮し設定。

⇒事務局説明に対する委員意見

■生駒専門委員

○外国人労働者数の数値は資料2-2で分かるが、職種は把握できるのか。

→事務局（府）

○厚生労働省の「外国人雇用状況調査」で分かるのは、技能研修生も含め、雇用関係にある方。「世界で活躍できるグローバル人材育成都市」の副指標として考えている「府内在留高度外国人材数」では、法務省の統計から在留資格ごとの人数把握が可能。

■近藤部会長

○本部会のキーワードである「多様性」をどう表現するか。例えば国籍や男女別等を示すのか。

→事務局（府）

○国籍の把握は可能だが、国籍数の多さが多様性を示すといえるのか、国籍数をどう目標設定するのか、そもそも指標に据えることがふさわしいのかを事務局で議論したところ、やはり指標としては一義的

に国籍だけをもって多様性の有無を評価することは難しいことから、分かりやすく外国人労働者数とした方が良いのではと考えている。

■近藤部会長

○論点はもっともだが、多様性の担保という観点で目標設定するという考え方もあるだろう。

■生駒専門委員

○来阪者の出身地域別人数を把握することは、多様性を維持・発展させるための仕掛けづくりをする上で必要。

→事務局（府）

○定性的な分析は必要と考えるので、例えば戦略期間の始めと終わりでの推移を把握するなど検討したい。将来の大阪の発展を見据え様々な地域から来てもらいたいと考えるので、そうした側面を踏まえ個々の施策へ反映していきたい。

■近藤部会長

○都市の多様性を一つの指標で計るのは困難。例えば、計画期間終了時に、何らかのかたちで達成度の検証が行えるよう考慮するという事で、部会の意見としたい。またグローバル人材育成にかかる部分で、日本人の国際化に資する施策を展開する上で、例えば実践的な英語に触れることが出来る場の提供といった視点も成果を検討する上で大事。例えば課外で英語に触れる機会という点は、大阪の強みの一つと考える。

→事務局（府）

○どこまでKPIとするか、中々難しいところ。現状を捉えるという意味で、数値の捕捉を検討したい。

■生駒専門委員

○産業界で言えば、海外に子会社を持つ企業が出てきたことで、必然的にグローバル人材の需要が高まる。海外に子会社がある企業数が把握できれば、一定グローバル人材の育成の傾向が分かるのでは。

→事務局（府）

○統計としてはなく、経済団体等に協力いただき、会員企業へアンケートをとり傾向をつかむという手段になる。全数把握は困難。

○「出会いが活力を生む多様性都市」の副指標で、素案では「大阪に本社を置く外資系企業数」を記載していたが、公的統計での把握が困難なため今回削除しているので補足する。

■近藤部会長

○継続性があり、かつ公的なデータがあるものをKPIに落とし込んでいくことを基本にし、今後達成状

況を検証する上で、多角的な視点をもって分析し、説明できるようにすること。具体的な数値目標等については、異議なしのため事務局案のとおりとする。

〔重点取組の事業例について〕

○資料 3 により、事務局から説明

⇒事務局説明に対する委員意見

■生駒専門委員

○整理としては分かりやすい。産業界も、今後都市魅力向上にどう関与していけば良いのかの目安になるものと理解。行政だけでは取組めないものもあるので、産官学が連携したプロジェクトを展開できれば。

■近藤部会長

○重点取組については、本日も欠席の野村専門委員からは特に異論なし。

○国際化は他の都市像においてもキーになることから、圧倒的に輝く大阪にするために、例えば留学生の受入数は大事であるなど溝畑会長からも指摘いただいている。次の推進会議では、大阪の独自性をどう出すかについて考え報告したい。

■生駒専門委員

○外国の方の子供の進学に関して、日本の教育に対するニーズは多いと感じている。外国の方に対し、日本語や日本文化、安心・安全を発信し、子供の大学進学等につなげていけたら。

〔今後のスケジュールについて〕

■近藤部会長

○部会における審議は今回で一旦終了。本日の議論を踏まえ、事務局との間で多少調整をした上で、第 3 回推進会議で報告する。

〔閉会〕